



▲総務大臣賞に選ばれた作品。  
12鉢すべて違う品種の菊が同じ大き  
きできれいに育てられている。



▲賞状を手に笑顔の福田さん。  
23年には1位にあたる文部科学  
大臣賞も受賞している。

## 第60回大宰府天満宮秋芳会主催菊花展で 総務大臣賞を受賞

ふく だ りん ひろ  
**福田 林廣**さん (大明神)

「失敗があるから成功があることを  
菊が教えてくれたような気がします」



「女房にはそんなに熱入れなくともいいのにつて言われるんですけどね。ついつい夢中になってしまふんですよ」そう話しながら大きく花開いた菊を見つめる福田さん。菊と出合っ  
て35年。今年11月に行われた「第60回大宰府天満宮秋芳会主催菊花展」では準優勝にあたる総務大臣賞を受賞した。

受賞した部門は「大輪十二鉢組花壇の部」と呼ばれるもの。12の鉢に咲く菊の雄大さ、色彩、花の大きさの均等性などを競う部門だ。そして、特徴的なのが12の鉢はすべて違う品種でなければならないこと。ゆえに育て方もすべて異なる。

「一番気を使ったのが水かけと肥料の割合です。少しでも間違えれば、大きく育たない。それぞれが違う品種だけに特に気を遣いました」。それでもうまくいかないのが菊の奥深さとも話す。「だからこそ続けているんでしょね」とほほ笑む。

近所の人が育てた菊に一目ぼ

れから始めた菊作り。「菊の形、咲いたときの美しさにすぐに自分もやってみたいと思いましたが」と当時を振り返る。有明フェリーに勤務しながら、時間の合間を縫って菊作りを続けた。最初は失敗の連続だったが、それでもやめようと思つたことはないという。「失敗したら次こそはいいものをもとに続けてきました。それを繰り返したらいつの間にか35年たっていました」と笑顔を見せる。今では菊の同好会である菊友会会長をはじめ、本年度から大宰府にある秋芳会の理事長を務めており、菊とさらに接する日々を送っている。

「趣味で始めた菊作りですが、今では生きがいです。多くの人に菊の素晴らしさを伝えていけたらと思っています。もし、菊を見てみたい、始めてみたい人がいれば、ぜひ声をかけてもらえたらと思います」と話しながら菊を見つめるその表情には、美しい満開の笑顔が咲いていた。